

# 平成24年度 第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会 議事録

I 日 時 平成24年8月2日(木) 15:00~17:40

II 場 所 伊勢市二見生涯学習センター 1階ホール

III 出席者 (委員) 浅井 清、池田 久、内田 賢樹、小河 孝、織田 揮準、  
越賀 弘幸、斎藤 陽二(代理:柴原 豊彦)、助田 宏樹、  
須永 哲也、辻 良、仲 立治、中地 栄博、中谷 文弘、中村 聡、  
濱口 正久、藤田 心作、前田 藤彦、宮崎 吉博、森岡 篤裕  
(以上、敬称略)

(事務局) 副教育長 小野 芳孝、高校教育課長 倉田 裕司、  
教育改革推進監 加藤 幸弘、教育総務課副課長 寺 和奈、  
教育総務課 辻 成尚、宇陀 和彦、久野 嘉也

## IV 内容

(事務局)

定刻となりましたので、ただ今から、平成24年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会を始めます。

まず、本日の配付資料は、A4版1枚ものの事項書、座席表、それからホッチキス留めの配付資料の冊子です。

前回、協議会の議事録につきましては、先日、各委員の皆様にご郵送させていただき、ご確認をいただきました。一部、字句の修正がございましたが、内容の修正等はありませんでしたので、ご報告をいたします。

また、本日も当協議会は公開にて開催しております。ご理解をいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、開催にあたり県教育委員会事務局副教育長の小野芳孝よりご挨拶申し上げます。(小野副教育長)

皆さん、こんにちは。本協議会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。6月28日の第1回協議会に引き続き、本日は第2回ということで、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

第1回協議会では、当地域におけるこれまでの協議の経緯を事務局から説明させていただき、皆様方からいろんなご意見をいただきました。そこでの意見を踏まえ、本日の協議会では、当地域全体の県立高等学校の活性化について協議していただこうと考えております。

前回の協議会でも述べさせていただきましたように、従前の「県立高等学校再編活性化計画」が今年の3月末で終期を迎えましたことから、現在、県教育委員会では新たな「県立高等学校活性化計画」を、これは仮称ですが、作成しているところです。

新たな計画では、いわゆる再編による適正規模・適正配置を進めることも学校の活力を維持、充実する活性化のための重要な方策の一つであるのとらえ、学習内容の充実等の取組と合わせて、名称を「活性化計画(仮称)」としているところです。このことから、本協議会も名称を「伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会」とさせていただきました。この地域全体の県立高等学校について、各学校の適正規模や学科等の配置のあり方に関する総合的な検討と、各学校の魅力化をどう図っていくかと、どうつなげていくかということを議論しながら、活性化の協議をこの2点でお願いを申し上げます。

本日の協議にあたりましては、当地域を取り巻く現状について、前回に引き続き、共通理解を深めていただく必要があると考えております。前回お示しした統計的なデータに加え、ご要

望いただきましたデータも用意しておりますので、事務局から後ほどご説明させていただきます。そのうえで、それぞれのお立場からご意見等をお出しいただき、実りある協議としていただけると幸いと思っております。限られた時間の中ではありますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。事務局を代表しましてご挨拶に代えさせていただきます。

(事務局)

委員の皆様のお出席状況についてでございますが、副会長の中谷委員から、前の会議が遅れておるといことで、少し遅れられるというご連絡をいただいております。それから、鳥羽市教育長の斎藤委員ですが、本日は他の公務と重なっておられて出席できず、代理の方にご出席をいただきますが、その方も30分程度遅れるというご連絡をいただいております。伊勢商工会議所の中村委員ですが、本日はご出席ということでご連絡をいただいておりますが、少し遅れておられるようです。追って到着されると思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります。ここからの進行は織田会長にお願いいたします。織田会長、どうぞよろしくお願いいたします。

(織田会長)

織田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は大変暑い中、ご参集いただきましてありがとうございます。どうぞこの暑さに負けずに熱い議論を今日もお願いできたらと思います。

前回の協議会におきましては、平成23年度までの協議の経緯を皆さんに共有していただいて、いろんな意見をちょうだいいたしました。その結果、平成24年3月に出されました、この協議会のまとめ、前回の配付資料では3ページから4ページにあります、「平成23年度伊勢志摩高等学校活性化推進協議会の協議まとめ」の最後の4ページの一番下のところですが、最後の6行、そここのところを読ませていただきますと、最後のまとめとしましては、「伊勢志摩地域の県立高等学校の魅力化・活性化を図り、子どもたちがこれからも生き生きと学ぶことができる学習環境を整えるため、平成24年度は伊勢志摩地域全体における高等学校のあり方について、普通科と専門学科の割合、普通科と専門学科及び総合学科のあり方、当地域における高等学校の配置などの視点から総合的に検討するとともに、平成27年度を目途とした小規模校の統廃合や分校化等の具体策をまとめる。」ということについて、皆様にご確認いただけたと考えております。

そこで、本日は、こういった経緯に基づいてご協議をいただきたいと思っております。今日の資料では24ページ、25ページで、私が今読ませていただきましたのは、25ページの最後の6行目です。本日、大変暑い中ですが、これからのこの地域における高等学校のあり方、流れを決める大変重要な協議会ですので、皆さんの忌憚のないご意見、ご提案をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、事項書の2の「議事(1)伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の位置づけ」について、事務局より説明をお願いします。

### (1) 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の位置づけについて

(事務局)

お手元の資料もございしますが、こちらのプロジェクターにも映しておりますので、見ながら聞いていただけたらと思います。

先ほど副教育長の挨拶にもありましたように、平成13年度に策定した「県立高校再編活性化基本計画」が、平成23年度をもって終期を迎え、現在、前にありますようにオレンジ色に黒字で浮き出している「県立高等学校活性化計画(仮称)」の策定作業を進めているところです。そして、今日の伊勢志摩地域活性化推進協議会と同じように、他の地域にも協議会があるんですが、そういった協議会での協議内容を参考にしながら、県全体の県立高校のあり方を示す「県立高等学校活性化計画」という計画案を作成していくこととなります。

この伊勢志摩地域の協議会では、副教育長の挨拶にもありましたように、平成27年度、そして33年に向けて、地域全体の県立高校について、各学校の適正規模や各学科の配置のあり

方に関する総合的な検討とか、各学校の魅力化・活性化をどう図っていくかということを中心に活性化の協議を行っていただくことになっています。

そして、この協議会での内容を参考にしながら、策定をされていく計画案について、案が固まってきましたら、それを、三重県教育改革推進会議、これは三重県の教育の改革に関する重要な事項を調査・審議するために設置された県教育委員会の附属機関ですが、ここに説明をし、いろいろとご意見をいただきます。

そして、三重県教育委員会定例会というところに更に説明し、議会にも説明し、そして、この計画案について、県民の皆さんから、12月の下旬ぐらいから約1ヶ月間ですが、ご意見をいただくというのを経て、3月に県全体の高校のあり方、方向性を示す計画が完成する、こういったスケジュールになっています。

そして、この地域協議会においては、それにどのようなものを盛り込んでいきたいかということも協議していただき、内容を固めていくということについて、今日、第2回8月2日ですので、あと第3回、第4回、第5回と協議をしていただくこととなります。

なお、この地域の協議会においても、年度末には、どういったことを話し合ったかという「協議のまとめ」を作成していくことになりまして、これが現在、県全体の県立高校の方向性を示す計画案の作業と、地域の協議会の協議がどのように関係しているかを示したものとなります。(織田会長)

どうもありがとうございました。ただ今、当協議会と「県立高等学校活性化計画（仮称）」の策定ということとの関連についてご紹介いただきましたが、このことについて何かご質問がございましたら、お願いいたします。

(池田委員)

3つ質問させてください。まず、今年度終わるこの過去10年間、平成13年からやってきていた再編活性化会議の基になっているのは、名前は忘れましたが、今年度終わる計画ですが、それは10年前にこういう形で決めてもらっていたのかと。過去の10年間のと今後のものとは同じような進め方をしているのかということが1点。

それから、2点目が、「県立高等学校活性化計画（仮称）」とありますが、これは何年計画のものかということ。10ヶ年でどれだけしていくという目標を持っているのかどうかということ。前のは10ヶ年計画だったと思えますが。

次に、三重県教育改革推進会議というのがここへ出てきていますが、最終的にはここで決めていくことになっていて、今、私らの言ったのは協議内容を参考にということ、こちらはおまけみたいな感じになってしまっていますが、前もそうだったのかということ。この三重県教育改革推進会議とはどんなメンバーでどのように行われるのか聞きたいと思えます。

ちょっと質問の仕方がまずかったが、前回の10年間のときに、計画を立てていくときの地域協議会、我々の今入っているのとの絡み、前と一緒になのか。それから、計画は10ヶ年計画でいくのか。それから、推進会議は一体どんなものか、この3点です。

(織田会長)

まとめてご説明いただけますでしょうか。お願いいたします

(加藤教育改革推進監)

まず、これまでの計画ですが、今回とちょっと違っていますのは、以前のものは、「基本計画」という基本的な考え方を示したもので、これは平成13年に作られています。それに基づいて具体的な各地域等々の再編を進めていくための、もう一段基本計画とは別に「実施計画」というものがあり、この実施計画は3年ないし4年を単位に、第一次、第二次、第三次という形で進んできたということです。この基本計画プラス、更に細かい実施計画、この両方が一体となって「再編活性化計画」という形になっていたものが、今年の3月で終期を迎えたという形になっていまして、この基本計画を作るのは、随分以前の話ですが、その当時に県全体のいろんな学識経験者等の方から意見をいただくような、正式な名称は今のものとは違いますが、やはりいろんな方からご意見をいただきながら策定をしていったと。

それから、第一次から第三次の細かい実施計画については、こういった協議会が各地で、鈴鹿であったり、そのときどきのテーマにより、当時は例えば、飯野高校とか松阪の方の宮川高

校とか、それぞれのそのときどきの課題に応じて協議会を作らせていただき、地域の部分については、協議会のご意見を十分参考にさせていただきながら作ってきたということで、この流れは変わっていない。地域協議会でいただいた意見を十分参考にさせていただき、活性化計画の該当地域の部分について作っていくという、その基本的な作り方は、これまでも現在も変わらないと考えています。

それで、今回、新しい計画につきましては、そのような基本計画と実施計画という二段というのを今度はやめて、一つにまとめたものを作ろうと考えています。それから、以前は10年の基本計画ということですが、非常に社会の変化が激しい中で、10年間を見通すのは難しい部分もありますので、今回は10年を見据えながらの5年間の計画として、新しく活性化計画を作ろうと考えています。その活性化については、いわゆる適正配置だけではなく、学科のあり方やキャリア教育の進め方など、非常に広い高等学校全体の活性化を含めて考えていこうとしており、その中の一部に北勢地域、中勢地域、松阪地域の適正配置等も入れていこうと。伊勢志摩地域については、当協議会のご意見を十分参考にさせていただこうと考えています。

それから、「教育改革推進会議」ですが、こちらは説明の文言としては、今、お手元やパワーポイントにあるとおりですが、委員としては20名で、学校の関係者、校長先生の代表、現場の先生の代表も含まれておりますし、民間企業や医療、福祉の関係の方、幼稚園の関係の方など、そういった各教育にいろいろ関係のある、いわゆる教育分野だけではないですが、経済界も含めてですが、ご意見をいただいたもので、これは条例に従って平成19年度から設置されているものですが、ここでご意見をいただくと。

ただ、これは決定をするための機関ではございません。決定は教育委員会が責任を持って決定するというものですので、地域については地域の協議会でご意見をいただくと。活性化の全体については、教育改革推進会議でご意見、先ほどの学科の進め方とか、例えば工業学科、商業学科、水産学科等々のあり方とか、そんなことも含めてご意見をいただくのは教育改革推進会議でご意見をいただく、という若干二段構えになっていると言えればご理解いただけるかと思いますが、いかがでしょうか。

(織田会長)

よろしいでしょうか。

(池田委員)

今、お答えいただいた中で、私が心配する、単に統廃合だけしたいところにいるいろいろな理屈付けてやってきてるじゃないかという心配をストレートにしているわけですが、そうじゃなくて、そういうことも含めてるけれど、いろんな教育改革をしていく中で活性化していくことをいただいたので、そこはしっかりと押さえていただいて、本当は統廃合なしでもっと活性化できればいいところを、いろんな問題があって、それもしょうがないかというところはあるかと思うが、そこだけがずっとここ5年間、私、参加させてもらってそればかり議論しているので、そこは押さえさせていただきたいと思います。

もう1つですが、この教育改革推進会議というのは、この4月に非公開で行われたものですかということと、もう1つは、教育委員会が責任を持って決めるということの意味なんです、私らがこうやって話をしている中で、これまでもそうだったんですが、いろいろな意見は出るんですが、教育委員会が責任持ってというと、その意見を適当に取捨選択して、それを教育委員会で結局独自に決めますというような意味にも聞こえるが、責任持ってということとは一体どうということかの確認の2点、よろしくお願いします。

(織田会長)

どうぞお願いします。

(加藤教育改革推進監)

まず、教育改革推進会議の公開、非公開の話ですが、原則、公開でやらせていただいております。ただ、活性化計画の中の地域のいわゆる適正配置の部分は、計画案全体の中の一部でありますので、その一部である地域の適正配置にかかわるところの審議をいただくときに、その部分を非公開にさせていただいた会議を、教育改革推進会議、1月、3月に開かせていただいたときに、一部非公開にしていました。

この伊勢志摩地域の協議会自体も昨年度まで非公開でやらせていただいていたところですが、それは委員の方々のご自由な発言を保証するとか、あるいは地域へのいろんな影響がありますので、一定、情報を整理したうえで出すべきものは出すべきという考え方でこれまでしてきましたが、しかし、非常に関心も深いところでもありますので、今日も傍聴の方いらっしゃいますが、検討させていただいて、今年度は、この協議会も公開にさせていただいておりますし、この後の教育改革推進会議も原則、公開でやらせていただくつもりです。

もう1点、責任の話ですが、県立高等学校でありますので、責任を持ってと申し上げているのは、県立高等学校を設置するのは、法令上教育委員会が設置することになっておりますので、設置者としての最終意思を決定して、責任を持って学校をつくって運営していく最終責任は県教育委員会にあるということです。

ただ、それに関しては、地域のいろんなお声や学校現場の声も当然聞かねばなりませんし、中学校などの関係の方々のご意見も伺わねばなりませんので、そのために地域のことについては、こういった協議会での意見を聞かせていただき、十分に参考にさせていただき、全体については教育改革推進会議、もちろんそれ以外にもパブリックコメントも行いますし、決して教育委員会だけで決定するという意味で申し上げているのではないですが、最終責任論でいうとそうなるという、そういう整理で申し上げています。

(池田委員)

今、答えいただいたところで、責任というのは、例えを言うと、野田さんが原発ですが、自分が責任を持ってというようなことがあるが、責任を持ってという言葉で勝手にされてしまうケースが最近よくあるので押さえさせていただいた次第で、我々の声をちゃんと反映していただければ、それでいいと思います。

最後にもう1つだけ、23年度までの前の計画が終わったということですが、それに対する反省総括を示していただくのが筋かと思いますが、それはどうなっていますか。

(加藤教育改革推進監)

これについては、全体のここがこうだったということ、全体像を一気に示すものとしては、今のところは持っておりませんが、これは当然教育委員会として1個1個政策がありますので、それについてどうで、それを次にどうつなげていくかということは、当然やっていかなきゃいけないと思っています。どのように示すかについては、考えさせていただければと思います。

(織田会長)

ありがとうございます。そのほか、ご質問がありましたら。

どうぞ、仲委員。

(仲委員)

非常に単純な質問ですが、27年度に向けて高校を再編統合する、どこどこを統合するというのは、どこのあたりで出されるのか。計画案の中に具体的にこうしますというのが今年度のこの協議会の中で出るのか、3月のこの計画の完成のときに出るのか、このあたりを教えてくださいたいと思います。

(織田会長)

今、こちらですが、私たちこのメンバーにとっては、この当協議会のスケジュールについて関心のあるところだと思いますので、ただ今のご質問に対して、次回なのか、その次あたりに協議するのかという説明をお願いします。

(加藤教育改革推進監)

「県立高等学校活性化計画」に各地域の書き方をどのように書くかということにつきましては、その地域協議会のことを重視せねばなりませんので、本日のこの協議会が、どこまでどういう議論が進むかということが大きく関係してくると思っておりまして、そして、例えば明らかに結論が一致になったのでこうしましょうという結論が出て、それをぜひ書こうではないかという話になったら、教育委員会としてそれを受け止めさせていただいて書くことになっていくだろうし、まだ、今のところ検討中ということになるのか、それはこの協議会の進み具合と全体の活性化計画の進み具合の中で決まっていくことかと思っています。

ただ、図の下の段のほうにありますように、27年度の地域のあり方については、今年の3

月のまとめにありますので、最終、この協議会の中で第5回までで終わればということで書かせてもらっておりますが、これは24年度中に何らかの協議会としてのまとめを出していくというふうに、これは3月のまとめでそうなっていますので、そのように考えています。

(織田会長)

第5回までには先ほどの質問のような審議をしていただかないといけません、もう少しこの協議会の流れによって、第何回目かに協議してもらうかは、まだ流動的だということです。本日の協議の結果によって、いつごろになるかという話題にもなるかと思いますが、その点、ご猶予をいただきたいと思います。

そのほか、この協議会と「県立高等学校活性化計画」との関連についての説明について、ご質問ございましたらお願いいたします。

(前田委員)

志摩市の前田です。ちょっと説明を聞き漏らしてしまったか分かりませんが、この27年度以降の高校のあり方を3月に計画、公表というところで、県内の他の地域もこういうことをやっておるということですので、先ほどの話では、ここでこう決まったら、それは尊重するということでしたが、具体的にこうしようとここで出て、よその地域ではこの辺については再編もして、より活性化していかないというところで終わっておったとき、県内の示し方として一本化になっていないというか、分かりますやろか、そんなのでもいいんでしょうか。それとも、よその地域も踏まえて、こういう示し方で県内統一した格好でこの計画を作っていくという感じになるんでしょうか。

(織田会長)

これは活性化計画策定委員会の問題だと思いますが、これに関連して情報がありましたらお願いいたします。

(加藤教育改革推進監)

以前の実施計画もそうですが、県全体の考え方、例えば、大規模校はどうしていくべきか、適正規模についてはこれぐらいでと考えるべきだ、小規模校は基本的にはこういう考え方でいくべきだということについては、県全体のこととして考えていきますが、それを元に、桑名・四日市、鈴鹿・亀山、津、松阪、伊勢・志摩、東紀州、伊賀とそれぞれの地域ごとの中で、27年度、28年度5年間を見据えてどう考えていくかという地域ごとの記述になっていきますので、その地域ごとの記述について、それぞれの該当地域の協議会、伊勢志摩地域であればこの協議会ですし、伊賀地域であれば伊賀地域の協議会のご意見を十分参考にさせていただくと、こういうふうに整理させていただければと思います。

(織田会長)

よろしいでしょうか。では、他にご質問ありますでしょうか。

では、無いようですので、いろいろ協議事項がありますので、次の「(2) 第1回協議会説明事項の補足」についてお願いいたします。

## (2) 第1回協議会説明事項の補足について

(事務局)

前回の協議会で資料の説明をさせていただいたときに、十分な時間がなかったので、もう少し丁寧に説明をするようにという要望と、あと補足資料の要望もいただきましたので、改めて説明をさせていただきます。

資料2は、伊勢志摩地域中学校卒業生の推移と予測ということで、これは前回もお示したのですが、平成24年5月1日現在の推移と予測です。これは平成24年3月の卒業、現在の高校1年生は2,558人で、学級数は伊勢志摩地域全体で44学級、これは2段目の表に載っております。先ほどから27年という言葉が出てきますが、平成27年3月の伊勢志摩地域の卒業者の見込みは、現在の中学校1年生が卒業するときのことになります、2,307人で、今年卒業した子たちと比較すると、約250名も減少するという説明させていただきました。

そして、24年5月1日現在の推移ということで、新たに前回説明させていただいたのが平

成33年3月の、現在の小学校1年生が卒業するときの見込みが1,852人になるということで、今年卒業した子たちと比較すると、約700人も減少することもお話させていただき、県全体で平成33年3月には2,500人減るとい大幅な減少のことをお話ししたと思います。これについては、今後の協議のベースとなる数字となる、重要なものなので、また何度かこの資料を見ていただくことになるかと思ひます。

それでは、3ページをご覧ください。これも前回お配りした資料のうちの1つになります。今スクリーンに映されておりますのは、A3の資料の一番上の伊勢市、玉城町の中学校卒業者の進学状況の部分の一部をこちらに映し出したものです。A3のほうには、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、度会町という全体が書かれていますが、少し複雑ですので、一つずつ見ていただけたらと思ひます。伊勢市、玉城町の中学校卒業者は1,472人で、そのうち市内の全日制に進学した子どもたちは1,040人で、それぞれ市内の県立高校へ行った子もいれば、私立の高校へ行った子もいるということで、47%と23%ずつに分かれて進学されたということ。

下から太い矢印が出ているかと思ひますが、鳥羽市、志摩市と、伊勢市、玉城町以外のところから伊勢市内へ進学した子たちが539人、先ほどの1,040人の約半分ですが、いるということで、その内訳が鳥羽市で126人、志摩市で285人、南伊勢町、度会町で128人と、539人にも上るといところと、あと、逆に伊勢市、玉城町から出て行った子たちといのは、左下の矢印になりますが、112人となっています。ここは伊勢志摩地域内での話ですが、グレーになっている矢印が左から入って右に出ているかと思ひますが、管外から伊勢市内の高校に進学した子たちは262人で、逆に伊勢市、玉城町の卒業者が伊勢志摩地域以外の高校へ進学した子たちは229人いるということで、お手元の資料にはその内訳が県立がどれだけとか、私立がどれだけといのが書いてあるかと思ひます。後ほど、この管外、どこの地域によく行っているのかといことについては、説明を改めてさせていただきます。

次に、鳥羽市の23年度の中学校卒業者は217人で、そのうち市内の全日制の高校ないしは高専に進んだ子は約22%で48人。35人が鳥羽高校へ行って、残り13人、6%ほどが鳥羽商専へ進学したといこととです。

左下に出ている矢印があるかと思ひますが、鳥羽市以外の高校へ進学した生徒はどれだけいたかといこととですが、卒業者に占める割合は約6割、131人、大半が伊勢市126人と書いてありますが、進学している。逆に、鳥羽高校ないしは鳥羽商船へ進学した鳥羽市以外からの中学校の卒業者は100人といこととで、伊勢市からは64人で多くなっています。といところが大きな特徴かと思ひます。

次に志摩市の平成23年度の中学校卒業者の進学状況ですが、卒業生全体で557人おります。そのうち志摩市内の全日制に進んだのは約34%、189人が志摩高校と水産高校へ進学しました。志摩市以外の高校へ進学した子は、左下に太い矢印が出てくるかと思ひますが、315人、卒業者に占める割合は約57%もの生徒が大半は伊勢市ですが、伊勢市内の高校へ285人が進学したといこととです。逆に志摩市内以外のところから入ってきたのは7人といこととで、非常にわずかとなっています。

最後に南伊勢町、度会町の23年度の中学校卒業者の動向についてです。卒業生全体では232人となっています。地域内の全日制の高校に進学したのは、そのうち17%の40人と。彼らは南勢校舎に25人、度会校舎に15人進学しました。残りの約6割の子たちは、左下に外へ出ている太い矢印がありますが、約60%、137人の生徒が、また、そのうち伊勢市内の高校へ128人進学しました。右端のところから南伊勢、度会町に入っている矢印がありますが、外から入ってきた生徒、進学された方は49人で、伊勢市内から46人といこととで、この46人は、南勢校舎、度会校舎のどちらか、度会校舎が46人中44人となっています。

伊勢市の平成23年度の中学校卒業者の進学状況といこととで、どのように各地域の中学生が進学していったかといところが、この資料の3に書かれています。大体これは毎年変わらない形の傾向となっています。

4ページを見ていただきますと、更にもその資料3を大きくくりに分けたものが、伊勢市内の高校にどれぐらい南伊勢、度会、鳥羽、志摩から進学しているか。逆に伊勢市、玉城町から南伊勢町、度会町、鳥羽市、志摩市にある高校へ進学しているかといところを示したものとなっ

ています。先ほどの説明と一部重なりますが、これで大きな動きを見ていただけるかと思います。足し算がしてないので分かりづらいのですが、伊勢市内の高校へ下から伸びている矢印を足しますと、539人になります。逆に伊勢市内から伊勢市内以外の鳥羽市、志摩市、南伊勢町、度会町に出ているのは112人となります。こういった形で進学の間向があるというところについても、今後の協議に非常な重要なデータとなるかと思えます。

それでは、5ページの資料4をご覧ください。これは前回の会議でご要望があったものです。伊勢志摩地域の高等学校への進学希望、7月と12月に取っているのですが、そのときの進学希望の状況と、実際の入学者数を、上のほうが実数で、それを割合で示したものが下になります。実数ではなかなか感じが分かりづらいので、下のほうの割合をご覧ください。この表は左側に高校名が明野からずっと書いてあり、一番下は水産、志摩市の小計の下、伊勢志摩地域の県立計というところで、ここまでが伊勢志摩地域内の県立の塊となります。その下が県内ということで、管外の県立、松阪とか大台町の昂学園とかが入っています。私立高校には、皇學館、伊勢学園も入っています。あと、県内の高専、県外という形で、進学先が左の列にありまして、一番上の段が伊勢市、玉城町、南伊勢町、度会町、鳥羽市、志摩市、計ということで、先ほどスクリーンへ映し出したものに、それぞれ7月時点、12月時点、実際の入学者数というところで分けて示させていただきました。

これの全体を見てみますと、伊勢志摩地域から平成24年3月に卒業した子どもたちの状況ですが、伊勢志摩地域内の県立高校へ行ったのは、伊勢志摩地域の県立計の一番右端の入学者数のところの59.1%となっています。

管外の伊勢志摩地域以外の県立高校へ行ったのは8.4%で、そのうち、松阪地域の高校へ行ったのは6.8という青い字で示してあります。

あと、県内の私立にどれだけ行ったか。これには皇學館、伊勢学園も含まれますが、22.6%となっています。そのうち三重高校には3.1%、県内の高専には3.6%、県外の全日制には0.8%ということで、これを見ていただきますと、非常に伊勢志摩地域の8割ぐらいが大体地元で学んでいるということが分かるかと思えます。この中で円グラフにしたものですが、先ほどのを足していきますと、伊勢志摩地域では59.1、皇學館、伊勢学園という伊勢志摩地域内にある私学が19.2、地元の高専を足しますと、約81%の子どもたちが地元で学んでいます。その次に多いところは、先ほどから何度か三重高校とか松阪地域の県立高校というところが出ましたが、松阪地域にある県立高校が6.8で、三重高校が3.1となっています。

松阪地域の高校はどういう学科に進んでいるのかというのは、後ほど説明させていただきたいと思えますので、さらにこの資料4の縦で、7月時点、12月時点、実際に入学した数という3つの割合が並んでおりますので、それで傾向を見ていたものが、今、スクリーンへ映し出しましたので、ご覧ください。7月時点の調査、これは子どもたちの希望で取られたもので、ここに行きたいということで取られたものが、伊勢市内の県立には約62%の子どもたちが行きたいと。鳥羽、志摩、南伊勢の県立高校は11%、そして、伊勢志摩地域以外の県立高校は10%ぐらい。同じく私立高校、これは皇學館、三重高校全部入っていますが、10%。濃い黄色が高等専門学校、その他ということで、7月時点でこういう子どもたちの希望が現れたものがこの数字だと思えます。

12月と段々実際の試験が近づいてきて現実を見てきたところだと思うんですが、そうすると、伊勢市内の県立高校へ行きたい子が約50%に減って、鳥羽、志摩、南伊勢の高校は13%で少し増えて、伊勢市内の県立、伊勢志摩地域以外の県立高校はあまり変わっていませんが、少し減ったぐらいで、大きく増えているのが12月時点で私立高校と。高専もあまり変わっていないし、その他もあまり変わっていないと思えます。

実際に入学した状況を見ると、さらに伊勢市内の県立高校は少し減って、鳥羽、志摩、南伊勢の県立高校は微増ぐらいで、私立高校が更に4%ほど伸ばして22.6%となっていると。こういった形で7月調査、12月調査、実際の入学した時点での割合というのは、毎年あまり変わっていないというところで、これも今後の協議の参考になっていくのかと思えます。

それでは、先ほど松阪地域の高校、どんなところに行っているかについて、詳しく説明してほしいというお話がありましたので、それについてご説明します。



7 ページに細かい表があります。7 ページの左側は 23 年度で、右側が 22 年度で、前に映し出しているのは、これの管外②のところの部分映し出しています。平成 24 年、今年の 3 月に卒業して、伊勢志摩地域の子どもたちが松阪地域の県立高校に 169 人行っているということでしたが、その内訳は、松阪高校の普通科、相可の普通科、多い順に並べてあるんですが、あと商業の情報ビジネス、松阪工業の繊維デザイン、全寮制の昂学園、相可高校の食物調理科、松阪高校の理数科というところが主立った形で、更にもう 1 年前の 23 年 3 月については、ほとんどよく似た、ちょっと上下入れ替わったりしていますが、同じ学校の名前が挙がっているかと思えますので、松阪地域の県立高校へ進学している傾向はあまり変わってないかと。人数もほぼ一緒に、割合もほとんど変わってないかと思えます。これが伊勢志摩地域の中学生の進学状況となります。

それでは、8 ページ、資料 5 をご覧ください。協議会でまとめられた「協議のまとめ」の付属資料に付いていた別紙のものに、現在の状況を加筆した資料となります。平成 27 年、32 年のクラス数の見込みは、前回お配りした「協議のまとめ」の付属資料のままとなっています。今回増えたのは、平成 25 年度入学生の部分と、平成 33 年度入学生の部分を新たに加筆して、前は口頭で説明しました欠員の状況を数字で示し、右下に書かせていただきました。

平成 25 年度入学生、現在の中学校 3 年生は、先ほどの資料 2 で見たところ、対前年比で 100 人ほど減るということだったと思います。クラス数も全部で 42 クラスということで、その 42 クラスの内訳は、お手元の資料の左から 2 つ目に、明野高校 5 クラス、伊勢高校 8 クラス、宇治山田高校 7 クラスといった形で示しました。“専”とか“普”とか書いてありますが、これは専門学科とか普通科とか総合学科とか、学校の種類となります。

それで、この現状が平成 27 年度の入学生のときにどのようになっているかというところが、右の矢印で、それぞれ伊勢市内の高校と鳥羽、志摩、南伊勢の高校にそれぞれ分けて、クラス数を推測したものとなっています。この後、ここの部分については、前回配付の数字と同じになりますが、実際には現在の中学校 1 年生が入学するときの状況となりますが、伊勢市内の高校で 27～29 となっています。鳥羽、志摩、南伊勢にある高校は、9～11 クラスということで、全体では枠外に書いてありますが、38～39 クラスになりますと。平成 27 年度入学生、これは現在の中学校 1 年生が入学するときの状況を予測したのですが、今よりも大体 3 クラスから 4 クラス少なくなるだろうということが予測されています。

次に、その右側の 32 年度、これは現在の小学校 2 年生が入学するときの予測になりますが、全体では 32～34 クラスになるだろうと。伊勢市内の高校が 23～26 クラス、鳥羽、志摩、南伊勢にある高校は 7～10 クラスということになり、全体でいくと 8～10 クラス減ることが予測できます。

一番右端の 33 年度入学生のところは、今回新たにデータが出てきたので加筆した部分となります。これは現在の小学校 1 年生の子が高校へ入学するときの予測となります。そのときの予測ですが、伊勢志摩全体では 30～32 クラスぐらいになるだろうと。その内訳ですが、伊勢市内の高校は 22～25 クラスぐらいになるのではないかと。鳥羽市、志摩市、南伊勢地域にある高校は 6～9 クラスぐらいになるのではないかとということで、全体で 10～12 クラス少なくなることが予測されることをこの資料で示しています。前回の資料に加筆したものなので、新たに 33 年度入学生、現在の小学校 1 年生のときの更に厳しい状況がお分かりいただけるかと思えます。

平成 27 年度といいますと、先ほど私、中学校 1 年生の子が高校入学するときと申し上げたのですが、それほど遠い先のことではないということをご理解いただけるかと思えます。先ほど会長から、今年の 3 月にまとめられた協議のまとめを読んでいただきましたが、今年度中に平成 27 年度という本当にすぐ先のことについて、平成 27 年度を目途とした小規模校の統廃合や分校化の具体策について、早急にこの協議会で具体的な協議を進めていって、今年度中に早く新たな対応策を決めていかななくてはいけないということがお分かりいただけるかと思えます。

この見込みをもう一つ見ていただくとお分かりになるのが、伊勢市内の高校も、クラス数が減っていくということです。同じように鳥羽市、志摩市、南伊勢町、度会町にある高校も少し

ずつ規模が小さくなっていると。子どもたちの数が減っていくので規模が小さくなっていくことがお分かりになるかと思います。

それでは、次の9ページ、資料6をご覧ください。先ほどのクラス数の話で伊勢市内の高校にしても、鳥羽、志摩、南伊勢にある高校にしても、平成27年、32年、33年になっていくと、段々規模が小さくならざるを得ない状況があるという予測があることをお話ししましたが、そこで前回、ご要望がありました小規模校のメリットとはどういうものか、デメリットはどのようなことかという話も出ましたので、今回まとめてまいりました。メリットですが、教員が少ないということで、全教員による意思疎通や共通理解が図りやすいというメリットが考えられ、同じように子どもたちも少ないので、生徒間や生徒と教員との相互のやりとりや理解が深まりやすいといったメリットが考えられます。こういった効果が学習活動とかにも出てくると思われます。

一方、デメリットについてはどうかということですが、教員の数が少なくなるということで、選択科目のうち、設置できない科目が出てくるのが生じてきます。では、実際、本当にどうなんだろうというところについて、お手元の資料の13ページに、県内の普通科ですが、8～2クラスといったAからGまで名前が振ってありますが、平成23年5月現在の調べですが、それぞれどういった形で主な教科が開設されているかということと、教員の数を調べたものとなっています。○が付いてないところが開設できないというところで、例えば、3学級のF高校は、社会科の科目で地理・歴史のところには○が入っていません。理科、物理のⅠ・Ⅱも開設できない。外国語、リーディング、ライティングも開設できていないというような、教員の数が少ないことによって、こういった設置できない教科・科目が出てくるということです。そうすると、子どもたちは、例えば地理が得意だった子どもなどは、中学のときに得意だったので、もう一度、高校でも更に勉強したいと思っても、高校で開設されていないので、その地理の勉強を高校でできないことが出てくる可能性があります。

次に、部活動についてもデメリットが考えられます。教員の数が少ないということで野球部から体育会系のクラブと文化系のクラブそれぞれたくさん種類が本当はあるんですが、教員の数が少ないことで設置できる部活動の種類や数が少なくなってくるのが、先ほどの科目の設置と同じで生じてきます。これも同じように調べたものがあります。お手元の資料の14ページをご覧ください。体育系のクラブと文化系のクラブというので平成23年10月現在で主なものを調べたものです。8クラス、7クラスという大規模校には、一通りのクラブがあって、男女共に部活が設置されていると。E～G高校という4～2クラスという小規模校になりますと、設置はされているが男子だけだったりとか、実際に3クラス、2クラスと減っていくと、設置の種類が減ることが見て取れるかと思います。

このような形で実際の学習面以外のところについても、部活動で中学校で例えば卓球で頑張ってきたが、高校でやろうと思ったが、実際入った学校にはなかったということが生じる可能性があるというデメリットがあります。こういった形で今、部活動と学習面についてお話ししましたが、最後に学校生活全般ということで、これは資料とスクリーンと同じものですが、一般的に、生徒が少ないため切磋琢磨する機会が少ない、学び合う場が持ちにくい、あと、非常に楽しい体育祭や文化祭といった大切な学校行事が盛り上がりにくい。やり取り、意思疎通は人数が少ないとうまくいくんですが、逆に固定化しやすいので、人間関係が崩れたとき、非常に対応が難しくなるといったデメリットが一般的にあるということが整理されています。

以上が、資料の説明となります。

(織田会長)

どうもありがとうございます。ただ今、配付資料の2ページから14ページについてご説明をいただきました。最後のところでは、小規模校のメリットあるいはデメリットまで含めてデータに基づいて説明いただきましたが、ただ今の説明についてご質問でも結構ですし、感想でも結構ですし、ご意見、あるいは、ご質問で答えられるものについては答えていただきますので、今の説明について何でも結構ですので、お気づきの点についてお願いします。

(中村委員)

今いろんなデータをお示しいただきまして、大変勉強になりました。

それで、伊勢のほうへ生徒さんが周辺の市町から来られているという、数字としてはよく分かったんですが、その理由、志摩地域にはない、例えば、商業高校がある、工業高校があるのか、あるいは私立の学校があるのか、さっきの実際の進学希望が時期によって変わってきているという数字もあるんですが、ぜひ、この辺を現場でご指導いただいている中学校の先生に、実はこういう理由と、あるいは生徒を見ているところだということをお聞かせいただければと思いますが、いかがでございましょうか。

(織田会長)

今の説明にはなかった、生徒の心情がどうして伊勢のほうにたくさん進学希望者、あるいは実際に進学者があるのか、データになかった生徒の心情について、実際に指導して下さっている先生でお気づきの点、あるいは感想でも結構ですので、ありましたら教えてほしいということですが、どなたかお気づきの、あるいはご意見ございますか。

(助田委員)

それでは、志摩市の中学校で私、進路の担当をした経験から話をさせていただくと、実際に漠然とこの学校へ行きたいという思いを持っておる時期から、自分の学力や家庭環境などを考え合わせたときに、実際に行ける学校、自分が選べる学校ということで変わってくるがあります。

それから、私立が少し段々膨らんできている状況の中にも、同じように具体的な話をさせていただければ、伊勢高なり山高なりに行きたいと思ってた子が、少し自分の学力では不安かなと思ったときに、専願のような形で皇學館高校を選んでいくというようなことがございます。ですので、その部分で増えておるようなところがあるのかと思います。

それから、地元が少し増えておるのも同じような理由で、志摩でしたら志摩高校の普通科へ進路希望を変えるようなことがあるように思います。

それから、おっしゃられたように志摩には商業科も工業科もございませんので、そういう意味では自分の将来を考えたときに、この高校へ行かなければという思いで選ぶ学校が、既に志摩や鳥羽にはないということがありますから、当然ですが、時間をかけてでも伊勢へ出て行くということがありますから、既に選ぶ段階で選択肢の中に志摩の学校が含まれてないということがあります。ですので、志摩から出ていきたいというような思いだけで選んでいるわけではなく、時間をかけずに通える学校が鳥羽、志摩にあるなら、状況は随分違って数字も違うだろうとは思っています。

(織田会長)

ほかに。では、よろしく願いいたします。

(濱口委員)

答志中学校のPTAの濱口です。保護者の立場から一言。実際、今のお話も出ましたが、先ほど来の資料の中にも、平成24年度の高校の定員で伊勢のほうが1,240人、それ以外の鳥羽市、志摩市、南伊勢ですと345人というところですので、実際、親御さんから見たら、先ほど先生もお話しされましたが、地元でそれだけの学校がないというところもあります。

実際、私も伊勢のほうに行ってみて、私の息子も鳥羽商船と伊勢工業にお世話になっております。行かせた理由としては、もちろん後の進学、もしくは就職というところが本音です。

人気のない学校というのは、鳥羽にもありますが、その後をどうしたらいいかという親御さんの不安が多分にあるというところなんです。その後に進学があるのか、就職があるのかということをもう少し明確にしていきたい。

あと、クラブ活動のデメリットの話が出ましたが、私ども離島ですので、クラブ活動をしたのなら地元の学校へ行けという経済的理由が多くあり、クラブがあるから伊勢のほうに行くというだけではなく、経済的理由から、クラブ活動をしたいなら鳥羽高等々近くに行くというのが現状でもあります。

それと、残念ながら小規模校のデメリットの中に、うちもへき地の中学校ですので、生徒数が少ないと切磋琢磨する機会が少ないとか、体育祭、文化祭が盛り上がりにくいとか、交友関係が固定しやすく、人間関係が崩れた場合に対応が難しいというのは、うちの場合ですとすべ

てクリアしているような気がして、逆に仲間意識が強くて盛り上がっているような、デメリットなのかメリットなのか分かりませんが。

あと、高校に関しては一生懸命に県もやっていたと思います。できれば活性化という意味で、なんか統廃合のような話ばかりで、マイナスのような暗い10年先が見えているような感じがしますが、できれば活性化できるような良い知恵が皆さんから出て、この地域がもっと良い方向になればという意見をぜひともお願いしたいと思います。

(織田会長)

ありがとうございます。池田委員。

(池田委員)

鳥羽高校ですが、私、鳥羽高校が総合学科になるときに強硬に反対して追い出されて、それで今、流れて明野にあります。

なぜ反対したかという、結局その後、どうしようもない、めどが立たないわけです。それまでは一応普通科でやって、進学するにせよ、就職するにせよ、両方頑張っている学校で来てたのですが、結局総合学科にしてしまって、果たしてその後どう持っていったらいいか、全く見当つかないんです。ところが教育委員会はその当時、何でもいいので南勢地区に一つ総合学科をつくらないかと。それで鳥羽がねらわれた筋があります。

このデータを見ても分かったんですが、鳥羽高で、例えば総合学科にしておいて、今言った職業学科は全部鳥羽高一つで引き受けるというようなものができるのだったら、よかったかもわからないが、職業科でもない、普通科でもない、なんかよう分からんというところで鳥羽がガタンと来ているのが現実じゃないですか。その辺をあまり形式的に帳尻合わせで学校の統廃合やら、再編やら、学科改編をやってきた結果がこうなっているとことも押さえてもらわんといかんと思います。だから、鳥羽高を含めてこの辺りの学校をどうするか、本気で考えていくことは非常に大事かと思うし、明らかに失敗だと僕は思うので。

だから、逆に言うと、そこが分かっているなら改善の見込みもあると思ってるので、またいろいろ意見を出していただきたい。離れてしまっていますが、お願いしたいというのが1つ。

それから、もう1つ、このメリット・デメリットですが、今も既に反応をもらいましたが、これ、どこから出てきたんですか。普通、少人数教育のほうが教育効果が高いのは分かっているわけです。だから、多分今、大体小さな学校はこんなもの全部クリアしてますよ。どこから出てきたデメリットか分からない。

確かにクラブの数や教科の数は少ないけど、今、私、明野高校にいますが、普通科で比較しましたが、私も日本史教師ですが、明野高校には日本史が無いので現代社会をやっていますが。その中で日本史の教養もちゃんとやっているわけで、社会科というのは社会人としての教育を身に付けなければいけないのは、社会科教師分かっています。あるいは、地歴公民と専門科目みたいに言うのは、とにかく文部省でして、私らは社会科教師としてどの選択科目使っても、それなりには教養が身に付く努力はさせてもらっています。こんなものなんともなるんです。日本史をどうしても受けたいという子がいたら、夏休み教えてあげようと言うたら済むだけのこと。個別のところを持って来て、デメリットだというよりも、やっぱり地元で時間的余裕を持ってクラブもしながら通えとか、あるいは少人数でしっかりと勉強できると。その中で人間関係をしっかりと。

大体今の日本の教育は逆なんですね、人間関係が希薄になってしまってガタガタになっている。そういう少人数教育とか、小さな学校というのはそれをカバーできている良さがあるわけですね。それに、こんな小さなクラブの数が、種類が少ないとか、そもそもクラブのために学校があるわけじゃないのだから。そうした個別の点だけ並べてくる。やっぱり少人数教育全体が大事なので。それから、地域の子供は地域の学校へ、というのは基本だという大元をすっ飛ばして、こんな小さなデメリットを出してきて、一体どこから出てきたというのか気になる。

(織田会長)

では、事務局から。

(倉田高校教育課長)

先ほどの池田先生の話の前半部ですが、鳥羽高の総合学科についてのお話が出たと思います

が、鳥羽高に総合学科を設置したということは、南勢地区に一つつくらなければいけないからというようなことではないと私どもは考えています。鳥羽高の活性化の一つとして、これまでの普通科から総合学科に変更をして、学科改編をして、そして活性化を図ろうという意図があったと思います。

2点目は、実際問題のところ、現在の鳥羽高はある意味欠員を多く出していて、少し元気がないということですが、これが総合学科であるから元気がないのかということと分けて考えなければいけない。総合学科だから現状があるということではないと。もう少し複合的な要素が考えられるのではないかと思います。その意味で、やはり鳥羽高全体の活性化をしていくことは大賛成ですが、そのあたりの現状の認識は少し我々とは違うんじゃないかと思っています。(中村委員)

池田先生のコメントについて一言だけですが。確かに少人数教育というのが目も届きますし、深く教えられるというのはよく分かるんです。それはやはりクラスの人数の話ではないかと。

学校規模としては、例えばクラス対抗リレーをやりますとか、競争をやりますとか、1位と2位しかないというのは寂しいような気がしますし、それから、クラス替えによっていろんな生徒が多数の人間を知るとか、一定の規模があるほうが情操面、あるいは学業面を含めてもいいんじゃないかという感じを持っています。

ただ、私なんかは団塊の世代の最後のほうなので、山ほどいた世代ですから、そういう思いがあるのかもしれませんが、クラス単位は少人数というのは効果は認めますが、全体の効果としては、一定あったほうがいいのかという思いがあります。

(織田会長)

大規模校と言うんでしょうか、それと少人数クラスとは区別して議論したほうがいいと。では、浅井委員どうぞ。

(浅井委員)

質問をさせていただきます。池田先生が隣にみえますので。教員の数が減っていった場合に、選択科目をたくさん開設したいような学校については、教育課程の編成について影響があるのかどうか。

それから、就職試験なり大学進学を考えるとときに、履修できる教科の数が一般教養試験とか、あと共通一次試験ですか、そういうものがありますが、それについての影響はないのでしょうか。教えていただきたいのですが。

(織田会長)

高校の教師の立場は教育委員会では別かもしれませんので、どうぞ先に、短くお願いいたします。

(池田委員)

まず、定数法というのがあり、生徒40人あたりに教師1人と決まっているわけです。ですから、私たちの各学校で少人数教育をしようとしたときには、過重労働を覚悟のうえで、1人の人間がたくさん講座を持たないかんというのを覚悟のうえで対応をしているケースは多々あります。ですから、基本的には何度も言ってるけど、国にかかわってくることだし、財政にもかかわってくることでありますが、元々35人学級にするとか、そういう少人数のほうがふさわしい授業、例えば家庭科なんかで包丁をバンバンやらないかんようなのを、40人包丁使わせても、1人で見ておって大丈夫かというような声もあるんだけど、そういったときに少人数のほうがいいのは分かりきっている。私の授業なんか、40人おろうが50人おろうが一緒ですが、その辺のところを財政的に改善するようなことを当然要求していくべきだとは思いますが、そういう定数法に縛られているから、大体先生らが余分な仕事をする形で、必要があれば対応しているのが一つです。

就職の試験等については、もちろん一般教養の試験とか対応しますので。それから、はっきり言いまして、大規模校でもいくつか講座はありますが、実際には、私も宇治山田高にいましたが、受験勉強というので5科目全部やっておるかということ、やってないわけです。受験科目しかやらない、他はサボッとるんです。私はそれが嫌いだから受験勉強が嫌いなんだけど、勉強の数を減らしておいて点数上げよという、こういう勉強をしているからだめだと言ってる

んだけど、本当は全部やるべきだと。進学校であればあるほど、受験科目以外は切っていますから、話がちょっと違っていると思う、実際の話が。

ただ、開設してないと共通一次とか受けられないから、その辺は対応してますが、それは進学校と就職校ではちょっと違うかと思いますが。確かに進学考えたときに、最低限の講座は必要かと思いますが、ただ、受験科目が限られていますから、それに合わせているというのが現実だと思っています。

(織田会長)

では、事務局から。

(加藤教育改革推進監)

基本的に今、池田委員からご紹介いただいたことと同じことになっていくんですが、学校規模と学級規模は一定、区別して考えなければいけないことはありますが、それは少人数で1クラス、例えば20人とか25人で教育できれば一番いいというのは、これは現場も教育委員会も一緒だと思っているんですが、なかなか学級編制規準がそうはいかないという現実がございます。

それから、開設科目等の問題については、これも今、池田委員が言われることと一緒に思うんですが、学校ごとのコンセプトというのが当然ありますので、いわゆる大学進学を目指す子がたくさんいる学校なのか、職業学科の充実を図っていく学校なのか、それぞれの学校のコンセプト等も当然かかわってきますが、例えば、大学受験をたくさん目指す学校においては、センター試験の選択科目とかは一定、必要になってきますので、そのためには教員の数が必要で、したがって学級規模が必要ということはあろうかと思えます。

(中谷副会長)

それと関連してですが、誤解を招くといけませんので。今の池田委員の発言ですが、なんか宇治山田高のような進学校は受験科目しかやっていないというようなことは、大変大きな間違いですので、全科目やっていますので、当然、芸術教育とか体育も力を入れてますし、理系の生徒は地理・歴史も2科目やっていますし、政治経済もやっています、現代社会もやっています。あらゆる科目をやっていますので、これはベースです。

3年生になりましたら、当然受験科目に力を入れますので、選択科目として自分の受験に必要な科目を取りますが、高校3年間ですべての科目を取っていることは大前提です。

それと、関連してですが、大規模校だから選択講座がたくさん開けるといのは間違いです。例えば本校で、理科を大規模校だから物理・化学・生物・地学全部置けるかということ、置いていません。例えば地学も置いてませんし、理系の生徒ですと、2年生で地理・歴史、例えば世界史、日本史、地理全部置いてません。2年生は例えば地理に絞っています。ですから、大規模校だからすべての科目が全部置いて、生徒は自分の好きな科目全部取れる、これは間違いです。大規模校であっても置けない科目がありますので、それは学校によって事情が違いますので、自分の今の学校の生徒の状況を見ながら、この科目を絞っておこうとか、その判断をします。これは大規模校、小規模校にかかわらず、今いる生徒の不利にならないような選択科目を置いているというのが大前提ですので、そこはちょっと気になりました。

併せまして、先ほどの県教育委員会の説明の中で、小規模校のいろんな話がありましたが、これは誤解を招きますので、こんな資料を出されますと、今の南勢地区の小規模校の教育はだめなんだと、そんなふうに聞こえてしまいます。一般論として説明をするのではなく、今、確かに小規模校はあります。でも、小規模校はしっかり頑張ってます。南勢地区の実態に合わせて小規模校はこういったメリットがあるとか、しかしながら、こんなデメリットもあるとか、実態に即した説明がぜひほしかった。こんな一般論の説明をされても、こんなの、もう10年前に済んでいるわけですね。基本計画策定のときに3～8という適正規模をつくるときに、この話はされておるわけで、今、なぜあえてこんな資料を出してくるのか非常に不可解です。

これは実際に南勢地区は半分ぐらいが小規模校ですから、その小規模校の今頑張っている姿を、ぜひ各委員の方に知ってほしかったし、一例を申しますと、最近、新聞で南伊勢高校の記事が出てました。これは間もなく岩手県の山田町へボランティア活動に出かけます。南伊勢町も岩手県の山田町と同じような地域ですので、子どもたちはそんな活動をしているんですね。

そんな小規模校の子どもたちも頑張っている姿をぜひ伝えてほしいと。

だけでも、生徒が減っていく中で統合止む無しというなら仕方がないと思うんですが、はじめから小規模校はデメリットばかりだと、こんな資料を出されますと、ちょっと後が苦しいんですね。もうちょっと資料に配慮がほしいと思います。

(宮崎委員)

今の校長先生のお話を聞いて、若干安心はしたのですが。池田先生の論法は誤解を招くのではないかと。高校教員が個人的な好き嫌いで学校を選んだり、学科を決めたりというようなこと、意見を言うのは構わないですが、全体がそういうふうにとられてしまうと、こういう公開でもありますし、そのあたりは考える必要があるのではないかと思います。意見は構いませんが。

(池田委員)

私の勝手に科目を選んだりしてないです。わがままを言わずに従っているということ。

(宮崎委員)

お互いに意見は交換したらいいと思うんです。

それから、少人数教育のことですが、私たちは適正規模というのは、子どもを育てるための土台として、一定での規模がいるという考え方ですね。すべて小さくてもいいという話ではないだろうと思うんですね。少人数教育というのは、ある程度の規模があって、例えば数学とか国語を分けるとか、私たちはそういうふうにとらえているのであって、1学級の規模を全部小さくしてしまったほうがいいのではないかとというふうにとられると、適正規模の意味がちよつとずれてくるのではないかと思いますので。少人数教育と小規模の学級の話は別ではないかと思ひます。

(織田会長)

できるだけ簡潔にお願いいたします。

(池田委員)

私の言い方が乱暴かわからんけど、実際、私なんかは、なんで自分の例を出したかと言うと、別にさっき申し上げたとおり、自分の好き嫌いで学校の科目を変えたりはしてないです。全部従っている。学校の中でちゃんとやっていかないかん。限られた時間しか無いんですよ。本当は全科目、社会科の教師ならやりたいです。だけど、できないです、実際に。その中でちゃんとできるだけのことをやっているということの例で言わせていただきたい。言い方が私の性格上から。

それから、私が申し上げたのは、いろんな要素があるわけですよ。ただ、中谷校長さんも言われたけど、小規模校のデメリットがないとは言わないけども、多けりゃいいというものでもないし、ここで出されたデメリットはカバーできる範囲のことなんです。

ところが、メリットの大きさは非常に大きいので、他でもこの地域の人らが何とか工夫してカバーできているところを、ことさら上げてきても仕方がなくて、というところなんです。非常に大きな問題と小さな問題が並列に数の問題で散らばっているように見えるから申し上げたので、一番大事なところはどこなのかということなんです。

それは教師と子どもたち、あるいは子どもたち同士が人間関係を密にして接していけるだけの教育環境なわけで。そのためにはできるだけ近いところに学校もあったほうがいいわけだし、そういうことが基本だったと思うんです。

それと、ちょっとした科目が少ないやないかとか、クラブの数が少ないという話を同列に話すべきじゃないということをやったわけです。

(加藤教育改革推進監)

先ほどのメリット・デメリットのところで地域の学校の実体を十分反映してないではないかということで、これにつきましては、本当に一般的に学校規模の適正規模を1学年3～8学級ということを県教育委員会として考えている。それに応じてその場合の中でのデメリット・メリットということで考えさせていただいたということで、伊勢志摩地域の学校の活性化については、この後のところでも県の考え方を示させていただこうと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

(織田会長)

時間も5時までというので、残り30分になって迫ってきました。

それから、ただ今のご意見、ご議論を見ていますと、これからの、あるいは、これまでのこの地域の高等学校はどのように活性化のために取り組んできたのかということにも話題が入ってきましたので、議事の「(3)伊勢志摩地域の県立高等学校のあり方とこれまでの取組について」と、前回、今後の課題として出てきました「(4)中学生に対するアンケートの実施等について」、両方併せてご説明いただいて、その後、今ディスカッションしたことと、関連するかもしれませんが、この地域の高等学校の活性化を進めるのにはどうしたらいいのか、どこが問題なのかというご意見を委員のメンバーの皆さんに、まだご発言いただいていない方もいらっしゃいますので、順番にご発言いただいて、なんとか5時までに皆さんのご意見をちょうだいできるようにしたいと思います。

では、議事の(3)と(4)につきまして、説明をお願いいたします。

(3) 伊勢志摩地域の県立高等学校のあり方とこれまでの取組について

(4) 中学生に対するアンケート調査について

(事務局)

資料8をご覧ください。1番の基本的な考え方のところは、伊勢志摩地域に限らず、三重県内にある高校全般に言えるところですが、少子化が続く中で、高校教育に対するニーズが多様化していると。これからも生徒が社会で生きていくために、必要な能力を身に付けるための教育機関として、高校は役割を果たしていかなければならない。そのためには生徒たちの社会性を育むことができる、集団の中で切磋琢磨しながら学習活動や学校行事、部活動を行うことができる学習環境を整えることが必要だということです。先ほど宮崎教育長さんが言われたように、適正規模というところの考え方になるかと思えます。

次に、2.各学科のあり方について、こちらからは伊勢志摩地域ならではのところが入ってきますが、普通科、1つめの○は主に大学等への進学を目指す普通科ですが、大学等への進学に向けた教育を充実させていくためには、多様な科目の授業を開設する必要があることから、1学年7クラスから8クラス程度の規模が望ましいと。これについては、他の地域でも同じようなことが言えるかと思えます。

そして、2つ目の○、就職及び専修学校への進学など、多様な進路希望を目指す普通科、これは就職する子もある程度おり、大学等へも結構進学していくといったような進路実現を目指す普通科についてです。このような多様な進路希望に対応していくには、この進路希望に対応した類型・コースや選択科目の設置とか、カリキュラムが充実していることが必要となってきます。

そして、こういった中で、先ほどと基本的な考え方は同じになりますが、生徒一人ひとりが集団の中で社会性を身に付けていく必要がありますので、このためには一定規模以上の学校が必要であり、1学年5～6学級程度の規模が望まれますが、各地域や学校の状況に応じた特色もありますので、基本的には三重県では1学年3～8学級を適正規模としています。

次に、専門学科についてですが、伊勢志摩地域では、農業、工業、商業、水産、家庭、福祉に関する学科が設置されております。当然この各専門分野の知識、技術の習得を目指していくことも重要ですが、それと併せて適切な勤労観や職業観を育て、地域の産業に貢献できるような人材を育てていく必要もあります。こういったことを考えると、専門学科を有する伊勢志摩地域の全日制高校については、現在、先ほどの資料5で見ていただいた、5クラスだったと思いますが、この現在の規模を下回らないことが望ましいと考えられます。

16 ページをご覧ください。ウの総合学科、これは鳥羽高校のことになりますが、先ほどもお話に出ておりましたので、同じことになりますが、観光ビジネス、生活福祉、スポーツ健康、文化教養、文理総合、5つの系列が設定されていて、また、多様な選択科目も開設されています。このコンセプトを実現していくには、1学年4学級の規模が望まれるのですが、平成25年度入学生からは3学級となりますので、今後、選択科目の見直しが必要となってくると。

(2) 定時制課程・通信制課程についてですが、平成16年度、伊勢実業高校に昼間部を設置



して、午前・午後・夜間の三部制の単位制定時制高校として、伊勢まなび高等学校に名前を改めました。翌17年度には鳥羽高等学校定時制を統合しました。学びたい内容を自分のペースで学んで、かつ、生徒一人ひとりが安全で安心した環境の中で、精神的に充実感の得られる居場所づくりを進めていくことが基本的な学科としてのあり方となります。

17 ページですが、これは参考までにお付けしました。明野高校からずっと書いてありますが、これは過去の取組について、何年度にどういった取組をしたかというのと、12月時点の希望倍率、大きな●が希望倍率で、小さな◆が後期の志願倍率となります。また、後ほど見ていただけたらと思います。水産高校21 ページまで各学校の主な取組を書き、それぞれ志願倍率や希望倍率を折れ線グラフで示しました。

そして、22 ページをご覧ください。先ほど会長から話がありましたように、前回の会議で、中学生が高等学校に対してどのような思いや願いを持っているのかというアンケート調査をしてみてもどうかというご意見がありましたので、このご意見を受けまして、たたき台となる案を作ってきましたのが資料9となります。アンケートの内容は、見ていただきますと、住まい、在籍している学年といった属性に続いて、まずどんな高校に行きたいかというところを聞き、その学びたいことに合わせて、どんなタイプの高校に行きたいかということで、普通科、専門学科、総合学科というのを選ぶような形になっています。最後に、高校でどんなことを実際にやってみたいかということを書いていただけたらということの、属性を除くと大きくは3問のアンケートを案として作ってみました。

この調査結果を今後の協議に生かしていくには、9月にはアンケートを実施していったらどうかと考えています。また、この協議会は伊勢志摩地域全体の県立高校の活性化について協議をしていく場でありますので、このアンケートも、伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会が実施する形でやるのが望ましいかと事務局は考えました。

アンケートの対象についてですが、当然中学生になりますので、各市町の教育委員会さんにご協力いただき、中学校1・2年生全員に調査をしてはどうかというのが私共の案となります。なお、配付、集計等の事務は県教委の事務局が担当したいと考えています。以上です。

(織田会長)

ありがとうございました。追加説明ですか。

(倉田高校教育課長)

1点、追加をお願いします。19 ページをお開きください。(5)の伊勢工業高等学校ですが、ここに1点追加をお願いします。平成24年度、「若き匠育成プロジェクト事業」、これは県指定です。この事業を平成24年度から伊勢工業で受けていただいていますので、追加をお願いします。

(織田会長)

ありがとうございます。ただ今、伊勢志摩地域の県立高等学校のあり方と、それから、どのような高等学校に進学したいかということを中心にした、中学生に実施するアンケートをこの協議会の責任において実施したいというご提案がありましたが、なんでも結構ですが、そのことについて、まず、質問がありましたら質問をお願いいたします。

(中地委員)

志摩市PTA連合会保護者の代表ですが、現在、公開でこういう活性化協議会をしていただいています、実際に保護者の方は、こういう協議会があるのを全然知らないんです。

教育委員会に聞きたいのですが、先日、志摩市で県PでPTAの連合会の会長が集まる評議委員会という会合があり、そこで話になったのですが、伊賀のほうでも統廃合になる高校があるのでしょうか。協議されてますか。結局、その協議されている統廃合にも既に協議されている内容を市P連の会長自体も知らないし、各学校が全く知らないという状態で、今やっとなんか統廃合の話が出た状態から、嘆願書を出そうか、そういう話を今はしているという内容の話が出てたのですが。

結局、せっかく協議会で会長さん、皆さん忙しい中で集まってやっていますが、去年まで非公開だったので、余計に皆さんみんなが知らない状態。せっかく公開になっていますが、この状態が全く保護者の方は知らない状態なので、このアンケートをするにあたり、中学生だけで

はなく、保護者にも27年度、32年、33年、子どもの数が減るということで、高校の活性化について協議会を公開でやっているという資料はあるのかと思ってインターネットを見たら、尾鷲のほうは7月18日に1時から3時までであるというのが、11日のインターネットなんです。

今日のが何かで分かるかと思って見たら、7月25日付で平成24年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会を開催しますというのが、やっと出てきたのですが、結局こういうのが全く分からない状態なので、保護者の方々が、こういう話し合いをしているのがもっと分かる形で、各市の教育委員会から出せるのか、どこから発信するのか分かりませんが、もっと高校についてみんなが集まって協議会をしているという内容のものが発信できたらいいのではないかと思います。

このアンケートを中学生じゃなく、保護者にもこういう協議会を行っていると。子どもについて、伊勢と限らず、地元の高校へ行ってほしいですかとか、交通手段、結局、志摩のほうですと、結構スクールバスがたくさんあります。うちの息子は伊勢高に行っていますが、五ヶ所のほうはどうかと聞いたら、五ヶ所からスクールバス1本しか来てないと。そうすると、五ヶ所の子たちが伊勢のほうへ行きたいと思っても、多分バスがないし、本数が少ない。そうすると、そういうところは伊勢へ行きたくても行けない状態だから、交通アクセスをしっかりとすれば、伊勢のほうへ行ってもいいと考える保護者もみえるし、クラブをしたいから地域に残したいという意見もあるが、その意見を聞いて、それをやっていることをオープンにしていけることが大事かと思って、アンケートを中学生だけじゃなく、保護者にも向けて発信できる方法はできないかというのが1つの意見ですが、非常に数が多いので難しいと思いますが。

(織田会長)

2つあったと思いますが、1つは、この協議会についての広報、情報発信をもっとすべきだということと、もう1つは、これからのこの地域の高等学校のあり方に関するアンケートは、中学生だけでなく、中学生の保護者という念頭でしょうか、保護者についても調査対象にしたかどうかという2つのご意見と考えてよろしいでしょうか。

(中地委員)

実際は33年度というと、小学生1年生まで学生の人口データを取って出しているのですが、それも踏まえた状態も保護者に分かるような形を取って、正直、小学生まですごい数になると思いますが、保護者に分かってもらうには、そこまでやってもらったほうがいいんじゃないかとずっと考えています。伊賀の連合会の会長も、今さらというので、もっと早く分かっていたらという考えを持っているというのが出てきますので。発信は大事なので。

今、小学校の統廃合がありますが、各市町、事前にいろんな市町でも教育長も行かれますが、話し合いは何度か持って、そこで統廃合を進めているが、そういう流れがあることを示していただきたい。できたら、大変な作業ですが、小学校まで出しても、先々のことなのでいいのかと思いますが、そこまでできなければ、中学校まででも結構ですのでお願いします。

(織田会長)

すいません、何回も。情報発信するということと、アンケートと2つに分けたとき、両方も中学の保護者にまですべきだというご意見でしょうか。それとも、この協議会の情報発信とアンケートは一応別物と考えて、この協議会についての情報発信を、もっとこの地域の保護者に徹底、情報発信をするような工夫をすべきだということでしょうか。

(中地委員)

アンケートを出していただければ、ある程度の情報発信ができると思います。ですから、人数は分かっているので、小学校まで出してアンケートを取っていただければ、小学生のお母さんたちがどこまで考えられるか分かりませんが、一応統廃合ということが現実起こり得るのかという流れも分かりますから、アンケートは小学生まで出していただいて、公開については、何かこういったことがインターネットでもいいので、出て見られる形を取って、それがどこかの広報でも何でもいいですが、三重県の教育委員会のHPを開いていただくと、そういう流れがあるのが分かっていたらどうか、そういう発信源があればと思います。

(織田会長)

分かりました。では、今までの説明、それから協議等について、事務局から追加説明があれ

ばお願いいたします。

(加藤教育改革推進監)

協議会については、日程等、それから事後の報告、議事録等もすべて県教育委員会のHPに、今年から公開になったということで1回目から掲載しておりますので、我々も発信についてどうしていくか考えていかなければいけないと思いますが、委員としてご参加の皆様もそれぞれの母体のところから出ていただいておりますので、ぜひ、いろいろな発信なり情報集約、情報共有等はよろしく願いできればと思います。

それから、アンケートにつきましては、また皆さんの意見もいただければと思いますが、どのような形で対応するか、基本的には市町教育委員会さんに、集計を我々がするとしても、配布・回収等々はかなりお世話にならねばならないと思っております、保護者さんも対象にして、しかも小学校も対象にするとすると、事務作業的にもかなりのことになってきますので、9月にはしたいと思っておりますので、進め方については、一定、例えばどのような案にするかについて、次の協議会ということになってきますと時間も経っていきますので、その間にいろんな電話連絡、メール等々で皆さんと情報共有しながら、一番良い方法で進めることで、ある程度事務局にお預けいただける部分があればと思いますが、いかがでしょうか。

(織田会長)

先に森岡委員。

(森岡委員)

7月12日に志摩市の中学校の校長会で、前にいただいたこのアンケートはどうかということについて話し合ってきましたので報告します。

高校の活性化につながるような中学生の意見とか考えをアンケートで聞いてみるということですが、それはあまり有効ではないんじゃないかとか、中学生に聞いても活性化につながるような意見は集まりにくいのではないかと。といいますのは、中学生にはイメージが湧きにくいのではないかと、アンケートを取っても。実際に中3の子であっても、高校説明会を各中学校で持って、高校の先生方に来ていただいて高校の様子を説明していただき、それで自分の進路選択の参考にしている。

それから、もう1つは、今ちょうどたけなわですが、オープンスクール等へ行かせていただいて、実際に高校を見て自分の進路選択について考えるとかいうことをしていますので、中学生にアンケートを取って、今、例に示していただいたようなアンケートを、もし、したとしても、意見を書く欄がメインになると思いますが、やはり説明会で聞いたようなことしか書けないんじゃないかという気がしますので、志摩市の中学校の校長会としては、あまり有効ではないという意見でした。

その代わりに、逆に高校生にアンケートを取ったほうが具体的なものが出てくるんじゃないかという意見が出ました。実際に入学者の選抜にかかわって、入学者選抜制度の検証会というのが確か県にありまして、そこで11月に高校1年生を対象にアンケートを取っているということで、実際に既に取ってあるということですが、中身は例えばアンケートとしては、どの選抜で合格したかとか、あるいは第一志望の受検校を決めた時期はいつかとか、あるいは、受検校を決定するにあたり、あなたの高校選びに最も影響を及ぼした情報を一つ選んでくださいとか、あるいは、そのようにして選んだのが、現在、どのように感じているか。例えば、希望どおりの学習、高校生活であるとか、あるいは、考えていた学習、高校生活とは少し違うとか、そういったことを答えるような項目があります。それをもっと具体的なことを聞いていけば、より高校の活性化につながるような回答が得られるのではないかという意見でしたので、まして、小学生にどんな高校が良いというようなことを聞いたとしても、活性化につながるような答えが得られるのかという点では、疑問を感じます。

ただ、保護者の方に今の情報を伝えていくこと自体は大賛成です。

(織田会長)

ありがとうございます。そのほか、ただ今の説明、伊勢志摩地域県立高等学校のあり方と、これまでの取組についての説明及びアンケートに関する説明について、ご意見、ご提案、なんでも結構ですのでお願いしたいと思います。

そろそろ時間になってきましたので、緊急というか、どうしてもというのでなければ、順番にお願いして、そのときにご発言いただくということにしたいと思いますが、今、どうしてもこのときということでしたら、お伺いします。

(濱口委員)

今、中地さんから出ましたが、私も保護者の立場として、この協議会がある以上は、10年先を見据えて、平成27年度からこういうふうな考えをしていますと、アクションを起こしていますと、県の教育委員会も一生懸命考えているということを知り、保護者の方にもぜひともアンケートをしていただきたいと思います。どういうふうに考えているのかということ踏まえて、先々、少子化で高等学校がこういうふうに再編が考えられるということも含めて、もっと広く意見を求めて、周知する意味でやったほうがいいと思います。

あと、中学生の皆さんにもぜひとも意見は聞いてほしいです。一応アンケートとして意見は聞くべきだと思います。

(織田会長)

よろしければ時間が迫っていますので、簡単に順番に一言ずつお願いいたします。

(加藤教育改革推進監)

「(5)の県立高等学校の活性化」ということが一番大事だと思っており、そこも含めてのご意見をいただければと。

(織田会長)

そうしましたら、先ほどありました(3)のところと(4)のアンケート、そして、時間が少なくなってしまいましたが、「(5)の伊勢志摩地域の県立高等学校における活性化について」を含めて、大変恐縮ですが一言ずつご意見を賜ればと思います。

(越賀委員)

南島中学校から来ております越賀といいます。

皆さんおっしゃられたのは、みんななるほどと思って聞かせていただきましたが、全体的な感想として一言言わせていただきます。

過疎が進んで来ると、そこに住む人たちはどんどん不安になってきます。人がいなくなると、うちも出てかないかんのやろかというふうな不安。子どもたちも一緒です。自分の通っていた小学校が無くなり、中学校が無くなり、今から行こうと思っている高校も無くなるのと違うかな、そうやって不安になってくる。そうすると、不安を先取りして都会へ都会へ行こうとする。今、日本全国というか、過疎のところすべてにそんな流れがあるのかと思いました。

学校が無くなると、地域が寂れていく、そういう加速をさせるような政策があっちこっちで行われているのかな。地域を切り捨てているような気がしてなりません。私の勤めている南島でも、一番下の子が中学を卒業したら引っ越していった家、いっぱいあります。そうやってどんどん年寄りばかりの町になって行って、残された人たちで活性化、活性化といって村のほうもやっていますが、そんな流れが止まらないのかな、もっと少人数のいいところはないのかなと思いつつ聞いておりますが、すぐに答えは出せませんので、こんな愚痴になってしまいましたが、そんなふうに感じました。

(森岡委員)

資料の3の中で、例えば志摩高校の120人今年合格しましたが、そのうちの113人は志摩市から行っている。それから、水産高校は89人合格しましたが、そのうち76人は志摩市から行っているということで、この数字が20.3%とか13.6%で、これだけしか行っていないんじゃないかというような印象になるというか、気になる数字だだと思います。実際には地元の子たちは、地元の高校へは非常にたくさん行っているわけですので、そのことはお知りおきください。

それから、水産高校については、幼稚園や小学校と随分交流をしていただいていますので、随分努力はしていただいていると感じています。

(宮崎委員)

活性化については、前回もお話ししましたように、大胆な発想がいるだろうということで、やはりこれをもっと時間をかけて話をしないと、短時間に一人ずつということでは難しいので

はないかと思います。

それから、全体的に会議の進め方ですが、もう少し論点を絞っていただいて、例えば、小規模校のメリットやデメリットだけでも随分時間がかかるだろうし、活性化に具体的な大胆な案はないのかと、いろいろありますという話になれば、これはまた時間がかかるだろうと思いますので、総花的にやらざるを得ないんだろうと思いますが、もう少し論点を絞ったほうがいいのではないかという気がします。

それで時間が足りないのなら、もう少し時間を取ってもらっても、大事な問題ですから、2時間が4時間になっても私は構わないと。次回の9月に持ち越しましょうというよりは、ここで例えば、前半の2時間は活性化にしましょう、後半の2時間は人口減少による学校数の問題、適正配置にしましょうとしてもらったほうが、いくつか重なるわけですが、もう少し絞れるのではないかという気がします。

(前田委員)

この資料の説明ですね、例えばこんなものは事前に配付していただいて、前回のとめ直しなので、結構時間の無駄だったかと思います。

それから、15 ページの資料8については、今回初めて提出されたんでしょうか。ということは、もうこれについては、伊勢志摩地域の県立高校のあり方というのは、今後のことがここで示されたとなるんでしょうか。

(加藤教育改革推進監)

これも含めて、これも活性化の大事な資料になってきますので、こうですということではなく、こういう考え方についていろんなご意見をいただけるために出させていただきました

(前田委員)

そういうことですか。これは案ですね。

あと、アンケートについては、私は保護者にとというのは、前もチラッと事務局の方に、保護者の方々にこんな取組をやっているからというので知らせるべきではないかというのを言わせていただいたのですが、そのときには、頭の文章はこれでは保護者には伝わらないと。もし保護者にするなら、内容を考えていただきたい。

中学校1年生全員というのは事務局からの確か話じゃなかったかと思いますが、中学生の1年生では、高校のことについては多分分からないと思います。自分自身も中学校を振り返ってみると、あまりどんな高校、漠としか分からないと思います。ですから、志摩の校長会で話し合ってもらったように、例えば高校生に聞くとつらい部分があるかわかりません。もしかしたら行きたかった高校へ行けなかったというのもあるか分からないので、どの辺を対象にするかというのは考えてもらわないといけないかと思いますが、ただ、保護者についてはぜひやっていただきたいということ。

それから、高校の活性化につながるかどうか分からないですが、一つ考えていただきたいのは、例えば志摩高校というのは、確か1学年8学級ぐらいの規模で校舎ができています。結構教室が空いていると思いますので、県立の特別支援学校に玉城わかば、度会特別支援学校にうちからも1時間半ぐらいかけてバスで行っていますが、そこに特別支援学校の分校を入れていただくと、一つの活性化にならないかと思っておりますので、もしあれば、例えば南伊勢町の南勢地区とか、志摩市、鳥羽はどこへ行っているのか、その辺でするといいのにと思ったりしています。もしあれば、また聞いておいていただければと思います。

(藤田委員)

度会町の藤田です。

今まで昨年からの協議会の議論を聞かせていただいていて、何か無駄な議論のような気がしてなりません。明らかにお子さんが減っていて、今の学校全部を残したとしても、各学校でクラスを減らさないと仕方がないと。これは明らかなことですね。クラスを減らさないなら、どこかの学校をつぶさなくちゃ仕方がない。これは現実論だと思います。だから、これに焦点を絞って協議したほうがいいんじゃないですか。何を今さら活性化活性化と言って、各学校さんが活性化に一生懸命現実努力していただいているわけです。そういう中で、お子さんが減ってしまって、クラス数を減らす、学校を無くすという方向でしか議論のしようがないと思います。

だから、ここに論点を絞って、時間をかけて皆さんのお知恵を拝借しながら議論すればいいことだと思います。

そういう観点から、このアンケートも保護者の皆さんにも取ってもらわなければならないと思います。(濱口委員)

いろいろしゃべって時間がないと思いますので、アンケートについては、ぜひともお願いしたいと思います。これだけのことを皆さんが考えていただいていることを周知して、親にも10年先、平成27年にはこういうふうになることを知ってもらったうえで、高校を選んでいただければと思いますので、よろしくお願いします。

(中村委員)

まず、先ほどの宮崎先生の議論の進め方については大賛成です。ぜひ、そんなことで論点あるいは焦点を絞って少し議論させていただければと思います。

アンケートについては、皆様、教育現場にいらっしゃる方が、保護者もやったほうが良いということであれば、特にそれに異論はありません。

(中地委員)

先ほど述べさせていただいたので。

(仲委員)

私も小中学校の統合を進める立場ですが、それを進めるうえで非常に神経を使っているのは、いろんな資料を作るうえで、メリットとデメリットは公平に出すようにしておりますが、先ほど言っていた資料は、かなりメリットをページ数で言えば1ページで、デメリットは3ページ4ページありますので、こういうのは公平にやってもらわないとまずいと思います。

アンケートの中身も、これから検討していくわけですが、ほとんど小規模校のメリットは書いてないので、結局選べないという、その他に書けばいいのですが、かなり小規模校は否定したような前提で誘導しているような感じがしますので、ぜひ、この辺は公平に進めてもらいたいと思います。

活性化については、先ほど副会長さんが言われたように、南伊勢高校は、間もなく岩手のほうに出発しますし、地元の活性化に非常に取り組んでもらっておりまして、南伊勢町を元気にする高校生サークルというのを立ち上げやっていますので、こういう小規模校のメリット、小規模校イコール地元に着した高校とはつながらないですが、小規模校であれば、そういう地元密着型の高校はできやすいので、ぜひ、そのあたりのメリットも書いてもらいたいと思います。

それから、私どもでは、できるだけこのような資料は、先ほど中地委員さんが言われたように、保護者や学校にも伝えたいと思って、先日、前回の資料で懇談会を持ちましたが、その資料でやはり衝撃的であったのは、前回の6ページの(1)～(4)の、これは非常に白紙撤回してもらわないと協議にならないという非常に強い意見が出ましたので、ぜひ、この考えはあるとしても、この辺引っ込めて裏のほうへやっていただき、これからの協議をお願いしたいと思います。

(辻委員)

度会郡PTA連絡協議会の辻と申します。

今回から初めて参加させていただきます。先ほど隣の仲教育長さんからも結構言っていただきましたが、7月25日に南伊勢町内の各小学校の校長先生方、あと、PTAの単Pの会長さん、そして、母親代表の方々とかたくさん参加していただいて会合を持ちました。その中でたくさん意見が出ましたが、第1回目の、私、欠席して資料だけいただいたのですが、この6ページの3の(1)～(4)の協議内容を読ませてもらって衝撃的だったのは、小規模校の統廃合ありきという文面で、高校とか地域の取組は完全に否定していると、そのように私も受け取りました。

その中で南伊勢高校は地域に根ざしていろいろな取組をやっていますので、とにかく活性化という面でも必要不可欠だと思っています。度会郡PTA連絡協議会としても、南伊勢町さんと同町の小学校と校長会、PTA連合会も含めて連名で県教育委員会に対して抗議を、抗議文という形で検討しています。これを今回の2回目の協議でこの文面のことに対して全然触れな

ったというのは、県教育委員会がこれではいかんということで修正してくれたのではないかと  
思って聞いていましたが、その辺事務局、どういうことかお聞きしたいと思っています。

(織田会長)

今、どの文面のことでしょうか。何ページ。前回の配付資料の6ページの(1)～(4)に  
ついての表現が。

(辻委員)

ここで統廃合ありきという感じで、私たち、南伊勢町の関係者というか、PTAを含めて会  
合を開かせてもらったんですね。やはりそういうことで協議を進めていくのであれば、私のほ  
うのPTA連絡協議会としても、県教育委員会に対してもの申させてもらいたい。これを引  
っ込めてほしいという内容ですね。

(織田会長)

(1)～(4)については異議があるということですね。私自身もその後、この協議会の立場  
というものが、前回も出てきましたが、県の活性化、正式な名前は何と言ったでしょうか、そ  
れに基づいてこの協議会が設定されているわけですね。その県の活性化の協議会の前提を踏ま  
えると、こういうのが出てきますということが、この協議会のある意味では宿命、限界と言っ  
たほうがいいのかもかもしれません。

それと、PTAあるいは保護者の方、あるいは地域の人たちの学校に対する考え方、あるい  
は期待だとか、そういうようなものとずれる可能性は当然あると思います。その理由は、県と  
しては県全体のことを考えたとはいっても、その活性化協議会の提案が、その地域、具体的  
な個々の地域に合うかどうかについては、あるいは、時代が変わって適用できるかどうか、無理  
があるかどうかということについては、そこまでは検討されていないというか、提言の中では  
入ってなかった。けども、この委員会は、その提言に基づいて、この地域のこの現状からす  
ると、こういうような提案ができますよということなんです。だから、それを撤回しないとこ  
の協議が進まないかどうかということについては、私自身、大変不勉強ですが、その撤回まで  
をこの協議会がしないと存続させられないのかどうか、そこは、私は分かりません。もうちょ  
っと詳しいことは、事務局で説明していただきたいと思います。よろしく願います。

(加藤教育改革推進監)

このことについては前回たくさんご意見をいただきました。いわゆる高等学校の魅力化・活  
性化を図る、これはこの「協議のまとめ」に戻るべきだというご意見を前回もたくさんいただ  
いたと思いました。魅力化・活性化を図るということと、いわゆる適正配置、再編、統廃合も  
含めたということの2つについてどう考えていくかということで、本日も統廃合に焦点を当て  
るべきだというご意見も一部ございましたが、事務局としては、3月の「協議のまとめ」に戻  
って、魅力化・活性化と統廃合も含めた適正配置と、両方について協議をお願いするという  
ことで前回も整理させていただいたと認識しておりまして、次回以降もそのようにお願いしたい  
と考えています。

(須永委員)

伊勢市PTA連合会の須永と申します。

保護者の立場でありますし、ちょうど今年、子どもが高校へ入りましたので、いろいろ思う  
ところもありましたので、話をさせていただきます。

やはり高校選択はほとんどが保護者の意見でたぶん高校は決まっていると思います。先ほど  
来お話がありましたように、中学生の段階で高校をどこにするというのは、将来の目標もなか  
なか見えにくい中で、保護者の意見が相当数、あとは保護者の経済状態も含めて一番大きいか  
と思っています。

私の娘、中国へ行っていて、広州の日本人学校にいました関係で、こちらの高校の状況  
が全く分からなかったのも、実は中学1年生のときから、そこの中学校では自分が行きたい高  
校を選びなさいということで、教室の後ろに自分が行く志望校を中学1年生の段階から貼っ  
てありました。別にそこは進学校であるとかいうことではなくて、自分の行きたい高校を中学1  
年生の段階から目標として定めなさいと。中学2年生のときには、夏休みに日本に帰ってきた  
ときに、その学校へ行ってしまう学校か一度見てきなさいということで、自分でその学校の

状況を確認すると。最終的に自分がその高校へ行くためにはどういった勉強が必要かということで、目標を3年間持ちながら進めるやり方をしていました。

そういった教育があれば、中学校1年生、2年生では高校どこへ行ったらいいか分からんという話もたくさん出ると思うんですが、やはり目標を持つということと、学校を実際に見に行くという作業をすることで、高校側も、活性化の意味では特徴が出せるのではないかと思います。

とにかくたくさん議論が出ている中で、保護者の立場から言えば、自分らのときに比べれば、高校入試は非常に変わったと感じます。それに、先生等もいらっしゃるので、前にして言うのはあれですが、非常に安全パイといわれる、絶対に受かる高校しか受検させないような風潮が非常に強いかなとは思いました。昔は、結構無理してでも頑張るといってもあったと思うんですが、全体の思いの中からそういうようになっていったのかとは思いますが、安全パイ、絶対に合格できるということからいけば、私立専願というやり方で流れていくという大きな流れではないかとは思いますが、取り留めないです。以上です。

(助田委員)

もっと時間が要ると思います。

それから、「伊勢志摩地域の県立高等学校のあり方について」という資料8の議論を今後していくというふうに考えれば、冒頭、池田委員が言われましたが、昨年度末までの再編活性化計画の総括ということで、南伊勢高校の校舎制については、今後、議論するうえでも、ぜひとも今どようになっているのか、適正規模というなら3クラスあるわけですので、一つの南伊勢高校という名前で、一つの学校の生徒であるという意識がそこにあるのかということや、校舎ごとの特色のようなものが出せるような状況にあるのかということ、あるいは議論の中身にありましたが、開設教科の問題点というあたりでも解消されている部分があるのかとか、学級数が減ることは明らかですので、今の南伊勢高校がどうなっているかを知ることが、今後を探る非常に重要な資料になると思いますので、ぜひともそれをお示しいただき議論したいと思えます。

鳥羽高校の総合学科についても、志摩からも総合学科で勉強したいという子たちが総合学科を選ぶ、少数ですが、あります。資料の中にもありますが、その子たちが昴学園高校を選んでいることがありますので、そこにどのような違いがあるのか。あるいは、そこで差別化のようなことが図れないかとか、立地条件やニーズを考えたらうえて、鳥羽高校をもう少し活性化させるための材料がそこにあるように思いますので、そのあたりの総括もして資料として示していただくと、もっと具体的な話ができるかと思えます。

(斎藤委員)《代理》

鳥羽市教育委員会の柴原と申します。今日は教育長に代わって出席しました。

実は、この会議の前に、鳥羽市総合計画審議会内部評価の会議に出席しました。その中で鳥羽高校の話題が出ておりますが、鳥羽高校の現状の課題解決に向けて市町教育委員会とはどんな連携が取れるか、何かできないかというような指摘を評価委員の方から受けてきたところです。

そういった中で、来年度また定数が減っていくという状況の中で、市町教育委員会と県立高校の連携がどんなことができるかと指摘された中で、この会議に出させてもらっています。いろいろ重なる部分もありますが、全く見えない部分もあります。

ただ、現状の課題解決のために、高校現場の先生方もどんな思いでいるか、どんなことを考えているか知る必要があるかと思いつながら、会議に出させてもらいました。

(小河委員)

商工会の小河です。

いろいろお話をお伺いしましたが、この伊勢志摩の高校の伊勢地域と、鳥羽、志摩、南伊勢地域の高校と分けて考えているように感じます。圧倒的に欠員が多くなるのは、志摩、鳥羽、南伊勢地域の高校ということで書いてあると、見るだけでも統廃合の話かというように感じます。活性化というのを最初にも質問させていただいたのですが、活性化というのは、高校の入学者の数が増えることなのかと。ただ、その高校で活性化をしても、入学者が増えなかったら、それは活性化と言うのかというような話だと思います。活性化したから受検者が増えるという



ようなことを目指していくのか。それとも、もっと特徴を持って、この高校へ行ったら、この3年間で英語がしゃべれるようになるとか、そういう社会へ出て使える武器になるものをここで持たせてもらえるのであれば、よそからも来るかもわかりませんし、ただ、総合教育をやって高校を卒業して何が残るとというのが、戦うときに英語が使えるとか、技術があるとか、そういうのが活性化につながるのだなと思っていますので、そういうことでこの後、何回か会議がありますが、勉強させていただきたいと思います。

(内田委員)

私は南勢地区県立高等学校の代表として出ております、伊勢工業のPTA会長の内田と申します。

前回、6月28日の後に、7月7日に南P連の理事会がありまして、そのときにこういう活性化の協議会に出てきました。それと、資料も作っていただきまして、各単Pの会長さん、校長先生と情報を共有化させていただきました。また、単Pの会議等でいろいろ議論が出てくると思っています。

それと、この資料9のアンケートの中で、4番の普通科の高校、専門学科の高校、総合学科の高校とあるんですが、中学生から見たら、普通科がどの学校かというのが分かりにくいかと思えます。例えば普通科だったら伊勢高校、宇治山田高校、専門学科は伊勢工業、明野、宇治山田商業、水産高校ですよとか、総合学科は鳥羽高校とかいうのも載せていただくと、イメージができるのではないかと思っていますので、その立場になった目線で書いていただけたらと思っています。

それと、ちょっと気になったのが、3のエで、先生が親身になっていろいろ相談に乗ってくれる学校とあるんですが、それがあるといことは、他の先生からなんにも親身になって乗ってくれてないように思われますので、どの先生も、小学校でも中学校でも高校でも、先生に相談したら、どの先生でも私は本当に真剣になって相談に乗ってくれると思っていますので、この辺はちょっと内容が気になりましたので、発言させていただきます。

(池田委員)

いつも長くて申し訳ないです。仲教育長さん、辻さんの言っていたことで、全く同じです。

ただ、このアンケートですが、現実的なものよりも、子どもたちに夢を聞いてほしいという気がしますので、校名を出すよりも本当にいろんな意味で、冗談ばかり言っている先生がいるというのでも別にいいと思う。夢を聞いていただけたらなどは思っています。

(浅井委員)

神島中学校の浅井です。

3点述べさせていただきます。この22ページのアンケートについてですが、1行目に、生徒の数が年々少なくなっているためという文言がありますが、資料の2ページ、27年度と33年度のその生徒減の予測を見ていると、非常に私はショックを受けました。これほど生徒が減っていくのかと思いました。

ただ、高校や小学校、中学校というのは、その地域の文化でありますので、高校をどういうふうにしていくかというのは、重い命題であるかと思っています。この協議会の話し合いにつきましては、意見も出てましたが、もう少し視点を明確化して、順序立てて話し合いをしていかないと、同じような議論が行われるのではないかという感想を持ちました。

(中谷副会長)

では、私のほうから、次回の要望も兼ねて3点ほどお話しします。

1つは、資料8、これから資料8がベースになってくると思いますが、資料8については、これまでの議論を踏まえた記述にしてほしいと思っていますし、これらもまた県教育委員会が出した案ですので、これを元にこの協議会でどんどん揉んでいかなければと思いますが。例えば、総合学科にしても記述が曖昧だと思っていますし、普通科にしても、これまでの成果というのが書かれておらず、総合学科にはいろいろ経緯が書いてありますが、普通科にはこれまでの経緯がないとか、全体的な統一に欠けている面がありますので、これについては、地区の校長会としても、2日前にこの資料を見せていただいただけですので、地区の校長会でこの辺に

ついて議論していることはありませんので、今示されましたので、次回の地区の校長会でこの資料も議論させていただき、地区の校長会としても、まとめた意見を次回に出させてもらいたいと思っています。

それから、いろいろ論点の整理の話が出ましたので、例えば、漠とした話をしていっても仕方ありませんので、大体前段の認識は統一できていると思いますので、次回、的を絞って、例えば当面の大きな課題は、小規模高校の統廃合を含めた活性化をどうしていくかという議論ですので、それについて、例えばここで案は出せるはずがありませんので、それこそ県の教育委員会からたたき台の案を出していただいて、それに対してこの協議会で議論していくというふうにしていったらどうでしょうか。

協議会の議論を大事にしてほしいと思っていますので、今日でも県教委の説明が申し訳ないですけど、長すぎると思うんですね。2時間の中で多分3分の1以上が説明なので、本来、協議の場ですので、もう説明は必要最小限に。例えば資料配付は事前に行っていただき、読んでくる。我々のほうで議論していくって、質問は仕方ないと思うんですが、この場で議論していくと。たたき台を出してほしいと思っているんですが、私たちの委員間協議の時間を大事にしてほしいと思っています。

それから議事録ですが、会議の前に前回の議事録を、簡単なものでいいと思うんですが、やはり確認してほしいと思っています。第1回目で特に私が気になったのは、小規模校の統廃合に絡んで、やはり小中の統廃合でいろんなことを経験されている教育長さんから、例えばセーフティーネットをどうするかとか、交通手段をどうするか、そんな話も出たと思います。だから、統廃合ということを考えているなら、子どもたちのセーフティーネットをどう張っていくのかということも、議論の俎上に載せないかと思うんですが、そういった議論が前出されていたのですが、それが冒頭、省かれていたと思いますので、前回の議論を大事にするという意味で、冒頭で簡単でもいいですから、議事録をまずここで確認してほしいと。この後、ホームページにアップしてもらっても当然構わないと思うんですが、まず、ここで前回の議事録を確認したうえで議論を進めていく。

そして、論点を絞って、何人かの方から出されてましたが、例えば小規模校の分校、統廃合を含めた活性化をどうしていくのかといった点で、県のほうからたたき台の案を出していただいて、それについて、それこそここで侃々諤々の議論をしていったらどうかと思っていますので、よろしくをお願いします。

(織田会長)

ありがとうございます。皆様からいろんな意見をお伺いしましたところ、一番大きなこの協議会の問題は、協議の進め方について不明確というか、もう少し論点、あるいは時間配分をしながらディスカッションをしたほうがいいんじゃないかというご提案もいただきました。次回からはそういうようなご意見も配慮しながら、時間配分を考慮しながら協議を進めるように努力したいと思います。

そのほか、事務局からそのたたき台を出していただいて、そのたたき台を元にしてどうするかということも考えたほうが良いといったようなこと。

それから、先ほどのアンケートにつきまして、アンケートの内容、対象をだれにするのかといったいろいろな意見が出ましたが、もう一度整理させていただいて、実際に行うことになるかどうか分かりませんが、アンケートをするという方向で、たたき台を次回までに作って、ここでまたアンケートについてのたたき台も提案させていただくということで、よろしいでしょうか。

(加藤教育改革推進監)

準備等の不手際で本当に長くなって申し訳ございません。

今のご意見も踏まえながら、論点としては前回確認させていただいた2つとあって、地域の高等学校の魅力化・活性化を図っていく。それは、今いる高校生のこともありますし、将来のこともありますし、予測はあくまで予測ですので、魅力化・活性化が図られたことによつて、もしも27年、28年に流れが大きく変わるのであれば、募集定数は毎年決めていくことですので、それはその時点ですべてしていくことになろうと思っていますが、残念ながら、この

予想どおりにってしまったことも想定しておかねばなりませんので、今、副会長からも言っただけでしたが、適正配置に向けた考え方について、魅力化・活性化と、それから統廃合も含めた適正配置のこの2点ということでぜひ絞って、次回、ちょっと長めの時間を設定させていただければと考えますし、場合によっては、もう1回程度増やさざるを得なくなるのかどうかですが、次回、9月の初めぐらいに想定させてもらってますが、今の2点です。

それから、アンケートにつきましては、今のご意見も踏まえて、中学校の保護者に対しては皆さんおよそ共通かと。中学生に対しては両方のご意見もありましたが、事務局としては、どこかの学年でやはり中学校の方も意見も聞きたいとは思っております。もう少したたき台を精査させていただき、これは次回の協議会を待たずに、それまでの間に情報をやり取りさせていただきながら、できれば9月にはやらせていただけるように進めたいと思います。そんな進め方でいかがでしょうかということです。

(織田会長)

いかがでしょうか。基本的な流れとしては、ただ今、事務局から説明がありましたような流れでよろしいでしょうか。

では、基本的にはそういう流れで検討させていただき、またその時々、必要に応じて皆さんにご報告させていただいたり、協議を踏まえて先に進めるという形にさせていただきたいと思っております。

本日は、前回いろんなご意見があって、活性化についてもこの協議会でディスカッションもすべきだというご意見があり、それを踏まえて、本日は活性化をどちらかというウエイトを置いてやろうと思って議事を進めさせていただきましたが、不手際でその活性化についてのディスカッションも十分できませんでしたので、これからの協議会においては、できるだけ時間配分して、活性化についての話し合いをどのくらい、あるいは、その時々課題についてどのくらいの時間配分をするかということ、あらかじめ、皆さんのご理解を得たうえで議事を進めさせていただきたく努力をしたいと思います。協力のほどよろしくお願いします。

(小野副教育長)

長時間にわたって、時間も超過したので申し訳ありませんでした。

ただ、私ども、この問題は非常にどの地域協議会でも深刻な問題ととらえておまして、今日、そういう意味で中谷副会長から、事務局の説明が多すぎるというようなこともありましたので、事前に今後も資料を配付して、最小限にとどめて、先ほどから言っていますように、この前の議論を踏まえて、今回もそうでしたけども、今後は、現在いる生徒の活性化のために、そして、将来的な生徒のための活性化、そして、一方で、再三話を委員から指摘いただきましたが、この少子化、統廃合も含めて、現実問題を見据えて話をしていくべきだと、この2点に焦点を当てて、時間配分もきちっとさせていただきながら、長時間になるかもしれませんが、ご容赦願ひ、今後の協議会に臨んでいきたいと思っておりますので、その点もご了解いただいたということで、今日の長時間にわたるご論議、どうもありがとうございました。今後もその2点にわたり焦点を当ててやっていきたいと思っておりますので、ご了解のほどをよろしくお願いいたします。

(織田会長)

どうもありがとうございました。では、私の司会をさせていただきます協議会は、これで終えたいと思っております。後は事務局でよろしくお願いいたします。

(事務局)

織田会長ありがとうございました。委員の皆様方も大変長時間ありがとうございました。

あと2点ほど連絡だけさせていただきます。まず1点目ですが、この協議会の先ほど来お話が出ております開催時間等につきまして、少し説明をさせていただきます。

(事務局)

本日の協議会の開催時間についてですが、前回、委員の皆さんのご意見を踏まえて、昼間と夜間の2種類の時間設定でお聞きし、ご出席が多かったところで今回15時から時間設定にさせていただきました。しかし、この協議会、今年度から、公開で行っておりまして、地域の方にも関心を持っていただけて傍聴に来ていただけるようにという趣旨もございまして、地

域の方々が傍聴に来られやすい時間帯、つまり夜間のほうが望ましいのではないかと考えております。第3回以降、協議会については、当然委員さんのご都合を最優先に配慮しながら、原則としては第1回と同じように夜間の開催でいきたいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

(事務局)

ただ今、説明させていただきました事情等を踏まえながら、今後、日程を決定させていただきたいと思っています。実は先日来、皆様方には郵送で第3回、第4回の日程のご都合は聞かせていただいたところです。その集約した結果によりますと、できましたら、第3回を9月6日(木曜日)、それから、第4回を10月2日(火曜日)、夜間の時間帯という形でなんとか開催させていただきたいと思っていますところです。

ただ、先ほど来ご意見にもありましたように、もう少し時間をかけてというご意見もございましたので、そのあたりはもう一度、皆様にご連絡を取らせていただいて時間調整はさせていただきたいと思いますが、その日程の夜間を中心に実施をさせていただきたいと思っていますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、再度ご連絡を差し上げますので、よろしく願いをいたします。

以上でございますが、ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、これもちまして、平成24年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会を閉会といたします。

本日は誠にありがとうございました。